

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫
両団体理事長 半 田 晴 久
交通部会長 松 本 治 男
専務理事 清 原 淳 平

交通部会のお知らせ (第252回)

日時 平成29年7月25日(火) **午後1時半～3時半**
場所 **衆議院第一議員会館 地下1階 第4会議室**
千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・南北線)①番出口より下車2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第4会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

- 議 題
- 1、最近の交通情勢について想う
挨拶 松本治男 交通部会長(元近畿管区警察局長)
 - 2、高齢運転者交通事故防止対策に関する提言について
 - 3、交通事故統計(6月末及び7月24日まで)
解説 警察庁交通企画課 落合大地課長補佐(警視)

報 告 去る6月27日開催の第251回交通部会は、松本治男部会長が議長を務め行われました。

まず、松本部会長より、「最近の交通情勢について」と題して開会挨拶がありました。6月10日に東名高速道路にて、乗用車が中央分離帯を飛び越え、反対車線の大型バスに衝突した、という事故が発生した。残念ながら乗用車の運転手は死亡したが、大型バス側では死者が出なかった。これは大型バス運転手の技術もさることながら、シートベルト着用をガイドが徹底していたことが大きい。ただ、中央分離帯を飛び越えるような事故も自動運転の制御下であれば防ぐことができたとも考えられる。自動運転の

普及により防げる事故は多いだろう。今後、この技術の進展を見守っていきたい。

次に、警察庁交通局交通企画課 落合大地課長補佐（警視）より、「遠隔型自動運転システムの公道実証実験に係る道路使用許可の申請に対する取扱いの基準」について解説がありました。自動運転公道実証実験につき寄せられた意見公募の中から、実験によっては走行審査に警察官が同乗するのと同様の審査方法を可能とするなどの修正を加え、各都道府県公安委員会の規則改正後、実証実験の申請を受け付けることとなる。

次に、「チャイルドシートの使用状況」について解説がありました。6歳未満でのチャイルドシート使用率は64.1%で、昨年とほぼ変わらなかった。後部座席での大人のシートベルト装着率が低いという現状と合わせ、いかに使用率を向上させていくかは今後の課題である。また、半数は着座方法や取り付け方が不適切であることも課題である。

次に、「高齢者に係る交通事故防止」について解説がありました。交通事故死における高齢者の割合は54.8%であり、年々増えている。運転者としての事故では「操作不適」による出会い頭衝突、正面衝突などが多い。歩行者としての事故では道路横断中の事故が多い。対策として、高速道路逆走防止のための分かりやすい道路標示、経過時間表示機能付きの歩行者用信号などの増設などを打ち出している。

次に、「交通事故統計」について解説がありました。部会前日（6月26日）までの死者数は1632人で、前年比151人の減。6月は若干死者数が増加したものの、上半期は過去最少の数字になることが確実視される。

この後、委員一同にて盛んな意見交換があり、以下のような意見が出ました。◎高齢者に対して能力不適で、免許をいきなり取り消すのではなく、安全対策車限定の免許を与えるなど、段階的にすべきではないか。◎高齢者の免許更新時に実車講習をすべきではないか。などの意見が出されました。

★ 資料代 会員500円
次回、7月25日（火）の交通部会（衆1）に

出・欠（いずれかに○印）

事務局宛 F A X 03-3507-8587

御芳名 _____

貴方様の F A X _____

電話 _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

（その際の会費は二千元となります。）

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp